

令和4年度 第3回南丹市社会教育委員会 会議録

日 時 : 令和5年3月10日(金)午前2時00分～午後3時20分

場 所 : 園部文化会館3階 大研修室

出席者 : (順不同・敬称略)

社会教育委員 小南仁、清水範子、北村友子、古北真里、大嶋久美子、小泉顕雄、片山智文、
片山幹雄、宅間治郎、伊藤雅史
(欠席者)岡島賢峰、麻田健治

市教育委員会 辻課長補佐、井尻課長補佐、今西主事

傍聴人 0人

1 開 会

2 あいさつ 小南代表

木村教育長

3 協議事項

○地域道德の取り組みについて 宅間委員

地域道德は、文部科学省の指定をいただき実施したものである。南丹市は小中学校全校がコミュニティ・スクールを実施しており、その強みを生かし、学校・保護者・地域が一体となって、まず道德教育に参画するという大きな目標のもとにスタートした。

八木中学校の例で言うと、2つの大きな柱を掲げた。一つは、ふるさと八木、もしくは南丹市を愛する子を育てたいということ、もう一つは、挨拶ができる子を育てたい、というもの。その中で、両方はできなくとも、挨拶推進に取り組み、もう一つのふるさとを愛する方に繋がるのではないかということで挨拶の取り組みを進めることになった。

地域道德の取り組みは、導入期、充実期、発展期として3年間の計画とし、令和2年度から始めた。まず、挨拶は中学校だけが推進するのではなく、町全体で取り組みを進めることで一体感が生まれると考えた。幼児学園の5・6年間、小学校の6年間、中学校の3年間の14年かけて意識化すれば、子どもたちは意識化できるのではないかと考え、中学校発信で、幼児学園と小学校に働きかけた。結果、八木ブロック全体で取り組むこととなり、活動が大きく前進する原動力になった。

具体的な取り組みとしては、令和2年度は「あいさつで今日も八木町絶好調」というのぼりをつくり、各小学校、駅、JA、八木支所、郵便局等、できるだけ町内の目につくところに設置した。令和3年度は「みんなで道德」を合言葉に、駅周辺での挨拶運動や親子道德、啓発ステッカーの全戸配布などを行った。令和4年度は、これまでの取り組みを10年間は続けようということで、消防団、商工会、青少協、民生委員、保護司会などに依頼し「八木のあいさつデー」設定することになり、今年10月13日に実施した。

取り組みの成果として、一番良かったのは、町内の一体感が持てたということ。幼児学園、小学校、中学校の保護者が中心となって各種団体の方が協力していただいたことである。また、道徳の授業では、できるだけ様々な価値をしっかりと考え、できれば親子、地域の人と一緒に考えて多様な価値観に触れるという場が持てたことである。

課題としては、研究推進がコロナによって大きく阻害されたことである。今後は、更に地域の方をどういう風に巻き込んでいくかということが今後の課題になる。この3年間は、八木地域が推進ブロックに当たって広めていたが、殿田地域は今年から実施される。地域の環境をテーマに取り組みを進めておられる。園部地域や美山地域はそれぞれ独自の取り組みを進めておられる。

南丹市全体がこういった取り組みをしていることを知っていただき、ぜひとも子どもたちの育みたい像に近づけるように、社会教育委員さんの協力体制があるとありがたい。

○質疑・応答

(委員) 南丹市内にある園部高校へ進学する八木中学校の生徒もあると思うが、この取り組みがつながっているようなことはあるか。また、高校までつなげて行くことはできるか。

(委員) 小学校や中学校はこうした連携が密になっていると思う。学校運営協議会を小中高一緒にやるとなると、その取り組み自体が続けられると思う。ただ、どうしても地域的に、幼稚園・保育園と、小学校、中学校まで壁があるので、そういったところをつなげていければよいと思っている。

(委員) 私も園部中学校の学校運営協議会の会長ということで、お話しいただいた、小中高で連携していければよいと感じた。文科省の指定をいただき、主導的に動かれて、結局地域的なもの、学校運営協議会やPTAも含めて全部同じ丸の中にあるというような感じだが、その先陣を切られたのが八木中学校ということか。

(宅間委員) 3年度に動き出し、その年は八木中学校が担当で今年は八木西小学校。一番大きかったのは生徒と共に活動できたということ。

(委員) 何かをやりたいという気持ちはあるが、どうしたらいいかが難しい。お互いに負担をかけたくないという思いもある。私も大きなのぼりを八木支所の前で見せていただいた。大変良い取り組みだった。

(委員) 地域道徳を取り組んでいただき、大変良い内容で、八木中ブロックは先進的にやっただいていると思う。私も園部第二小学校の運営協議会の委員をしており、去年から親子道徳の取り組みを進めている。園部はまだ各校がそれぞれやっている。そこから広げて、幼少中の連携という取り組みになればと思っているが、園部中ブロックは人数も多いので難しい部分もある。園部第二小学校も、あいさつをメインに取り組んでいるが、あいさつに関わる各学年の道徳の教材をもらい先生方が話され、それをもとに親子で熟議を行った。ほとんどの保護者が来ておられ、中にはお父さんも来ておられたので、そこでいろいろ話し合い、それを皆の中に出し、全体で盛り上がった。その後、地域での子供たちの関わりや保護者の方がどういったあいさつをされているか興味があったので、見ているとやっぱり違う。私も登下校の見守りや本の読み聞かせ等で関わりを持っているが、子どもはよくあいさつをするようになった。こうした取り組みは継続していかないといけない。

(委員) あいさつがある町は確かに元気があると思うので、進めていきたい。評価は、こういった形でされているのか気になった。道徳教育の評価で、児童・生徒同士の学びあいとは異なる学びの広がりを感じることができたとあるが、それはどうやって評価しているのか、教えていただきたい。また、中学校全体としてあいさつ運動などをされているが、各教科のなかでその題目をどうするのか、教育の課題としてその中だけで議論していてもその問題は共有されないと思う。各教科が全部同じ目標にあって、道徳が目指しているところを例えば理科や社会ではどうしていくのか、というところが大事だと思う。

(宅間委員) 1つは、道徳と人権教育の2つは全学校教育を通じてやっていくという根本理念がある。教科横断的という言葉があるが、社会であれば例えばウクライナの問題がある。そういったところで触れたりしている。広げるところはいっぱいあり、例えば修学旅行で長崎に行くが、原爆の話などを教科でする、というところを先生の中では意識化している。ただ、地域道徳と各教科の関連性は道徳の指標の中に教科との関連性をまとめてあるが、それと年間計画の中でやっていくというもの。評価の問題については、非常に難しいのが実情。道徳の評価を教科化したときに、一番言われているのは1年間を通じて、個人の変容を、毎時間の授業の記録の中で介していくということになっている。教科の中では、授業を終えて、最初はこういった考え、ということワークシートにわざと設けて、簡単な導入を入れて書いて、授業をして、終わりに自分の変化について、気づきをしていく。実際にそこから実践の評価として、学校の中でどれだけ気づけるかどうか。見えなところでゴミを拾った時とか、こういったときに評価していくか。教師には、そういったところをできるだけ拾って言ってくれと言っている。数値化されたものはどうしてもアンケート方式になってしまう。書かせると、中身のあるもので、案外地域の人は冷たかったなど否定的な表現中にはある。次にはそれはなんでや、というような形でつなげていく、そういう地道な過程を経て、こちら側の指導を教科につなげることが大事だと考えている。

(委員) むずかしいですね。

(委員) 地域と学校との垣根が低くなったと感ずることはあるか。

(宅間委員) 例えば、ステッカーを配る時に事前に宣伝をしてチラシを全家庭に配った。それから、防災無線、ケーブルテレビ、京都新聞などあらゆる手段で広報してこの日を迎えた。そうすると、当日の反応はほとんどの家がウェルカムだった。地域の方は訪問したときにあいさつがんばってるんやね、と声をかけていただいたり、校門に立っていると、頭を下げられる車の方が多くなった。声掛けてくれたりもして、一步一步、長い時間がかかったが、垣根はとれつつある。

(委員) 非常に精力的に活動されて、新しいことをしようとするのは大変だったと思う。ただ、この取り組みによって、学校も児童・生徒も地域も、新しいものが生まれてきているような感じがする。特に小学校は地域との結びつきが結構あるからこそ、地域に行っているいろんなことを一緒にしたり勉強する機会がある。しかし、中学校になるとなかなかそういった機会がうまく作れない。今回、こうしたあいさつを通して、幼児学園、小学校、地域の人とも繋がれて、あいさつだけでなくそこから派生してたくさん生まれてくることもあり、良かったのではないかなと感じる。私も殿田中学校の関係で関わっているが、殿中ブロックはふるさとを舞台にして、ふるさとを好きになって、と

いうなかで取り組みをしている。殿田小学校では河川清掃を中心としているクラブであったり、胡麻郷小学校では米作りや野菜作りなど、さまざまな活動を行っている。殿田中学校はあいさつで、朝何人かが学校の前に並んでJRに向かって「行ってらっしゃい」のあいさつを年に3回くらいしている。最初は反応がなかったが、数を重ねていくうちに乗っている人や運転手さんが反応するようになってくれた。少子化で子どもと接する機会がなくなってきているのが現実だが、その中でこういった取り組みをやっていくと、お互いに得るものがあると思う。繋がり、結びつきを、地域の中で大切にしていくと、長く影響していくのではないかなと思う。こういった取り組みをすることによって、子どもを自然に見守っていくということにも繋がるので、大切なものが生まれてくるのではないかなと考える。

4 その他

各種委員選出

5 閉 会

清水副代表のあいさつ